

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	佛教大学	整理番号	1-3-027
応募テーマ	主として教育方法の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	学生の人間力を育む福祉実習教育の開発		
申請単位	大学全体		
申請担当者	岡村 正幸		
(取組の概要)			
本学の特色は、生活経験の乏しさやコミュニケーション能力の弱さといった学生の変化を肯定的に受け止め、学生の潜在能力を引き出す教育開発を組織的に行ってきたことにある。平成 12 年に福祉教育開発センターを設置し、教育方法の改善、個別指導の充実、教員間での課題の共有などを通じて、福祉現場に還元できる人材の育成に努めてきた。 具体的には、福祉実習教育の充実を柱とし、①各学年の教育重点目標の設定、②10 名前後の少人数ゼミ、③実習希望学生全員を対象とした面接と個別サポート、④個別の学び・日々の基礎的な学び・発展的な学びの重層的な支援、⑤FD 活動の活発な取組み、などを強化し、「共生社会」を担う「人間力」を基礎に、福祉専門職の養成を行なっている。 今後は、発展的学習を支える「リ・ユニオン・プログラム」の充実、併設施設「和順の里」における実習プログラム開発や福祉現場との共同研究を行い、教育方法の発展に努めたい。			
(採択理由)			
この取組は、佛教大学の教育目標である「人類福祉の増進に貢献する」人間形成および「共生（ともいき）社会の実現に貢献できる活動力ある人材の養成」を達成するために、既に 40 年近くにわたって組織的に実施され、社会福祉実習の徹底した教育と組織整備に実証されるように大きな成果を上げています。 現在、大学には、社会・経済構造、産業構造の急激な変化に対応できる特色ある教育が求められており、この取組の実習教育に特化したカリキュラムや学生へのきめ細かい指導、学内の組織的支援体制という点はこうした社会の多様な要請に十分応える優れた取組であると認められます。特に、前者の実習教育の指導については先進性も見られ、今後、学生には社会福祉領域での多様な実践力と人間的成長が求められつつあることを鑑みれば、この取組は他の大学の参考になり得る優れた事例であると言えます。 また、この取組には、リ・ユニオン・プログラムの堅固な組織化が不明確という課題も認められますが、これを克服すれば更なる発展が期待されます。			